

市立病院のこれから 広報げろ 2009.2

市立病院のこれから

県立下呂温泉病院の移転建設の決定とともに下呂市立金山病院の改築についても具体的な動きが始まりました。今回は市立病院の今後について考えて見ましょう。

市民病院の今後を考えると、病院の経営状況、県立病院との住み分けすなわち役割分担、下呂市に二つの病院の必要性などが論点となります。

市立病院の経営について

現在の地にあり約50年を経た金山病院の経緯そのものが経営の安定性を証明しています。金山病院は過去数度の大きな改築を経験していますがその借入金はその後の受診料や国からの交付金が当てられ、町税からの負担はありません。金山病院が現在の地にあるのも大きな意味があります。国税が入っている以上病院は下呂市ばかりでなく近隣の診療域に対しても医療を提供する責任があるばかりでなく、同地域からの受診者を受け入れることによって経営が成り立っているのです。

県立病院とのすみわけ

県立下呂温泉病院と金山病院の役割分担についてもそれぞれの歴史的経過からその役割はすでに確立しています。金山病院は病院として最小限必要なものだけが残って現在に至っており今後もこの体勢は変わりません。より専門的な領域は下呂病院に頼っており金山病院が機能するためにも下呂病院のいっそうの充実が望まれます。どちらの病院も救急医療、一般診療を行いながらも下呂病院は循環器や脳神経などのより専門的な急性期医療を担い、金山病院は慢性期患者を受け入れる療養病棟を充実し下呂病院を支え、さらには市民病院として下呂市の保健福祉行政に参画する体勢が必要と考えます。

下呂市に二つの病院が必要か

受診環境を考える中で岐阜市などでは救急病院に10分以内に受診可能です。当地域でもせめて30km以内にまたは20分以内に受診できる救急病院があることがその地域が安心して生活できる目安と考えます。安心して生活できることが人口の減少を食い止め下呂市の維持につながると考えます。また現在金山病院は100人を超える雇用者を抱え給与は受診料から得ている下呂市の一大企業です。下呂市の税収にも大きく貢献しています。

改築の必要性

金山病院の老朽化は他病院と比較すればよくわかります。最も新しい診療本館でも築30年を経過し、空調、水回りなどの老朽化が著しく、施設は手狭となって現在の診療施設基準に合わなくなっており、有効なサービスが提供できなくなっています。継ぎ足し施設のため導線が長く作業効率が悪いばかりでなく受診者にも不便をかけています。また、医師不足の折現在の施設では医師にも選ばれない病院となっています。さらに、耐震基準にも合致せず地震対策からも改築が急務となっています。病院の改築に向けて皆様がいっそうのご協力をお願いいたします。